首都高速道路ソーシャルボンドの購入について（令和7年10月23日）

千代田区では、令和7年10月23日、積立基金の運用を通じて SDGs への寄与、社会貢献につなげていくため、首都高速道路株式会社が発行するソーシャルボンドを購入しました。

SDGs （持続的な開発目標）は、国連がよりよい社会の実現を図る世界共通の目標で、社会、経済、環境の面から17の目標が定められています。

SDGs 債は、これらの目標の実現のためのプロジェクトに資金が活用されるもので、ソーシャルボンドは、社会的課題の解決を目標としています。

首都高速道路ソーシャルボンドは、同社の高速道路事業を通じて、所要時間の短縮、渋滞の緩和、首都直下地震、気象災害激甚化への対策、高速道路の更新、CO2 削減等に資金が充てられます。

SDGs の目標では、「目標3：すべての人に健康と福祉を」、「目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう」、「目標11：住み続けられるまちづくりを」、「目標13：気候変動に具体的な対策を」の課題解決を目的としています。また、その目指す成果は、区の環境施策や災害対策などの多くの事業の趣旨と合致します。

本債券は、国際資本市場協会（ICMA）の定めるソーシャルボンド原則に適合している旨の外部評価を格付投資情報センター（R&I）から取得しています。

首都高速道路ソーシャルボンドの購入は、令和7年2月に続き、合計6回目となります。千代田区は、今後も首都高速道路ソーシャルボンドをはじめ、SDGs 債への投資で基金の一部が活用されることにより、SDGs の実現を目指していきます。